

東日本大震災復興 NPO 支援・全国プロジェクト

仙台事務局 メルマガ NO7 (9月9日発信)

先日、仙台市の応急仮設住宅の状況に関する資料を読み驚きました。プレハブの仮設は 1225 戸、公務員住宅等は 381 戸、借り上げ民間賃貸住宅は 8177 戸 (8/25 現在)。なんと仮設は全体の 1 割強でしかなかったのです。昨日の新聞にも、宮城県内全体で借り上げ (23,359 戸) がプレハブ着工数よりも上回ったという記事が載っていました。このような数字を見るとパラソル喫茶は“貧者の一灯”でしかないわけですが、“ハチドリのひとしずく”という逸話にあるように、今、自分ができることをし、パラソル喫茶というささやかな活動を通して気がついたこと、仮設に行って感じたことなどを、これからもレポートしていきたいと思います。

※ハチドリのひとしずくとは南米のアンデス地方に伝わっている話です…森が燃えていました。森の生きものたちは われ先にと逃げていきます。でもクリキンディという名のハチドリだけは いったりきたり、口ばしで水のしずくを一滴ずつ運んでは火の上に落としていきます。動物たちがそれを見て、「そんなことをして いったい何になるんだ」といって笑います。クリキンディはこう答えました。「私は、私にできることをしているだけ」

■ 第3回パラソル喫茶 in 山元町 (ささえ愛山元チーム)

8月17日(水)、山元町浅生地区の仮設所で喫茶を実施。

今回は仙台市若林区で高齢者を対象とした配食サービスを行っている「あかねグループ」とのコラボでお弁当を 50 食提供することが出来ました。集会所には既に東京の NGO が「足湯サービス」で入っていましたが、率先してパラソルを組み立てるお手伝いをして頂き、和やかな雰囲気の下、喫茶を開始しました。しかし、この仮設での活動は初めてだったため、当初は集まりが悪かったのですが、「美味しいお弁当がありますよ～」という一言で、たくさんの方が集まり、たちまち 50 食はなくなってしまいました。喫茶終了後は、「ささえ愛山元」の元の事務所でカレーライスをご馳走になりましたが、ボランティアの方々やスタッフの力により、津波の被害に遭ったとは思えないほどきれいになっていました。



■パラソル喫茶 in 仙台市 (若林区荒井小用地) ⑥

8月19日(金)、ナルク (NALC) が担当。写真は、荒浜地区の合同祭の準備のために建てられた櫓をうまく利用して喫茶コーナーをつくっています。この仮設は大規模仮設 (194 戸) で自治会組織もしっかりしており、集会所ではいつも色々な催しがあり、ホワイトボードには空白がないほ



ど予定が書き込まれています。しかも月に 3 回は集会所で、震災前にお寺で行っていた“ともびき会”が行われ、入居者同士の交流を楽しんでいるとのこと。孤立防止のための喫茶は必要ないかと考えていたのですが、よその地域から来た人、そして仮設の奥の方に住んでいらっしゃる方との交流を図るためにも、工夫をこらしながら喫茶を続けていく必要があると感じています。

■パラソル喫茶 in 仙台市（若林区七郷中央公園）⑦

8月21日（日）、「茂庭台すずめの宿」が担当。あいにくの雨でしたが、集会所を借りて交流することができました。60戸のうち45戸ぐらいしか入居していないにもかかわらず、約20数人の参加があり、アットホームな雰囲気の中、楽しそうに語り合っていました。このチームの特徴は、なんと言っても可愛い小学生姉妹がかいがいしくお茶等を運ぶこと。そして紙コップではなく陶器の器にコーヒーを入れて差し上げることです。その他にも抹茶サービスや手づくりのお菓子も用意され、入居者の方々は本当に喫茶店に入ったかのように思ったかもしれません。

さらに今回は、お茶のペットボトルやサラダドレッシング等、物資支援も調達してきており、この仮設ばかりでなく、前回行った2号公園の人たちにも配って喜ばれていました。



■パラソル喫茶 in 仙台市（若林区JR南小泉アパート）⑧

8月25日（木）、「さくら会」が担当。この日は自治会が山形への温泉ツアーに招待されていたため、一時はキャンセルの話も出ていたのですが、前回の喫茶時に25日に開催すると広報していたこともあり、予定どおり実施することにしました。参加者が少ない場合は、かえってじっくり語り合えると思っていたのですが、自治会長さんは温泉に行かないで喫茶に参加してくださって、今回もまた大勢の参加者で賑わいました。



色々な方と話し合う中で、Sさんを始め仮設の皆さんが待ち望んでいた集会所が建てられることを聞き、本当に良かったと胸をなでおろしました。この成果は、入居した皆さんが自治会を組織し、集会所が欲しいと声を出し続けたからに違いありません。これからも皆さんの思いをまとめ、自立に向けて一歩ずつ前進して行ってほしいと願っています。私たちはその日まで寄り添って行きたいと思います。

■パラソル喫茶 in 仙台市（宮城野区仙台港背後地6号公園）⑨

8月24日（水）、ナルクが担当。参加者の中には、これからの見通しが全く見えてこないで、とても不安な日々を過ごされていたり、家や船等すべてを流されたご主人の様子がおかしく、目が離せない状況という方もいらっしゃったようです。しかしパラソル喫茶には、ごく自然に入れる雰囲気があって、声がけすると立ち寄る男性も増えてきたようです。

■パラソル喫茶 in 仙台市（若林区荒井小用地）⑩

8月25日（木）、引き続きナルクが担当。ナルクは全国に支部があり、各地からのボランティアを受け入れているので1ヶ月に4～5回喫茶を実施しています。やはり回数を重ねるほど顔見知りが増え、また新しい人達も参加されるようになり、喫茶が着実に定着してきたという手ごたえを感じているとのこと。近くにある小さな仮設にも呼びかけたいと意欲的です。



仮設住宅 なじみの友たくさん

仙台市宮城野区出花2丁目、介護職員阿部いつよさん（右端）は「自宅は津波で床上浸水し、息子夫婦と孫の4人で宮城野区のマンションに暮らしています。病院で会った友達から、仮設住宅の屋外でパラソルのお茶を飲む『パラソル喫茶』のイベントに誘われ、自宅から分かって歩いて来ました。イベントが多い仮設住宅は、以前住んでいた集落の人と集まって暮らせる貴重な場。引越した先には家族以外の知り合いがいなくて、普段は留守番ばかりです。またしばらくしたら仮設住宅に集まって同じ集落の人と話したいです。」

■パラソル喫茶 in 仙台市（若林区七郷中央公園）⑩

8月29日（月）、「混成チーム」が担当。私の知人3人と傾聴ボラ6人、スタッフ3人で対応するつもりでしたが、見学者7名、精神保健福祉士4名、区家庭健康課3名の参加があり、危惧していたとおり参加者よりもボランティアの数のほうが多い事態となってしまいました。しかも、NHKが飛び入りで取材していたとか…。この日は暑かったため冷房の効いている集会所内と、外にパラソルを2台設置して喫茶を開始しましたが、日差しが強く、結局は集会所の中でのお茶飲みとなっ
てしまい、参加者にとってはちょっと閉鎖的な場になった
のではないかと反省しています。

今後は、仮設の入居者数を基にボランティアの数を調整しながら、参加される方々が落ち着いて話し合える環境、和やかな雰囲気づくりを心がけたいと思っています。

ボランティアと一緒につくった箸袋には、「がんばっぺ」「立ち止まらないで一步前に」「ありがとう」というメッセージが書かれていました。



■ 第1回パラソル喫茶 情報交換会開催

◇日時：8月27日（土）11時～13時 ◇場所：みやぎNPO プラザ研修室

◇出席：牧野史子、茂庭台すずめの宿（鈴木、吉田）、ナルク（林、梅津）

ささえ愛山元（佐々木、瀬戸）、仙台事務局（近藤、藤田）

※セーブ・ザ・チルドレン（佐々木）

各団体（自己）紹介の後、牧野さんから阪神淡路大震災で大活躍した「茶話やかパラソル」の活動について話を伺いました。時代が違い地域性が違う点ではありますが、大変参考になりましたので要約してお伝えします。

1995年、当時は集会所のような「ふれあいセンター」は各市に一つしかなく、暗中模索の中から「茶話やかパラソル」が生まれた。仮設は600戸～6戸と差があり、小さな仮設には物資も届かず、最初は個別訪問し必要な物資を届けた。やがて、そのようなパラソルチームが集まり2ヶ月に1回「西宮地域助け合いネットワーク」という情報交換会を行うようになった。個別訪問し、調査し、データを作成し、行政に伝えるグループもいたが、半年もたつと、外人部隊（京都や大阪からのボランティア）や、炊き出しチームはいつのまにかなくなった。

日本財団が事務所費や人件費を出してくれたが、物資をフリーマーケットで金銭化し6年半ぐらい活動した。お風呂がとても狭かったので日帰り温泉ツアーを企画したり、お惣菜2種類と混ぜご飯をパックにして販売もした。また、「おばあちゃんのレストラン」をつくり週1回の食事サービス活動を行うようなコーディネートや、仮設に入居している人たちの間でボランティア活動をするようなコーディネートを行った。

パラソル喫茶は色々なものを合わせられる「合わせ技」。色々な団体や人とコラボ（協働や連携）して、多彩なサポートを企画することが出来る。

今は無料にして信頼関係を築くときだが、ある時期から自立に向けて有料にしたほうがいい。

■フィリピン・セブ島の水を福島県、そして宮城県牡鹿半島へつなぎました。

岡山県全労災の M さんから、「フィリピン・セブ島の水が4トントラック2台分あり、被災地で役立ててほしいという人がいるんだけど」という連絡が入りました。「4トントラック2台分って、どのくらい?」「引越しの時に使うから、相当大きい車だと思うよ」「で、どのくらいの水なんだろう?」というわけで、寄贈してくださるといふ Y さんと直接話し合ってみると、1リットルのペットボトル9本×約600束×15パレット=約81,000本ということが分かりました。

震災直後ならいざ知らず、現在では水はスーパー等で安く買えます。そこで、備蓄用としてだったら必要としているかもしれないと、あちこちに当たって見たのですが、そんなにたくさんは要らないという返事に、すっかり困ってしまいました。



ところが、人脈は幅広くあったほうが良いですね。最近、パラソル喫茶の仲間になった I さんが、南三陸の水は塩分が多くカルキ臭いので天然水を必要としているはずと、牡鹿半島で被災者支援活動をしている東本願寺の僧侶を紹介してくださいました。聞けば、福島では放射能汚染により水が必要ということが分かり、9月2日に福島県二本松市に27,000本を届け、その後仙台市のお寺で38,000本を一時預かりし、翌日、牡鹿半島に届ける手はずとなりました。残り16,000本は、被災者支援活動をしている2団体と仙台事務所が引き受け、私たちは倉庫のある仮設所に届けました。

合計54,000本の水の受け渡しは人手が必要で、お寺関係のボランティア10人と私達2人、そして佐賀県からパラソル喫茶応援に来てくれた若者2人で約1時間もかかってしまいました。

■支援物資・支援金の報告

- ・神奈川県三浦市の大槻さまからバッグ類を送っていただきました。
- ・共同印刷社の小石川さまから水500ml*24本*41ケース送っていただきました。
- ・「お布団を送ろう会」の田中美恵子様呼び掛けで、茨城県つくばみらい市の石崎様と東京都小金井市の天川様よりお布団・シーツ・毛布などを送っていただきました。
- ・ファミリーマート様からちび丸子ちゃんのTシャツ149枚をご提供いただきました。
- ・埼玉県戸田市の三上さまから食器類を送っていただきました。
- ・岩手県一関市の千葉様からプラトンボ（プラスチック製竹トンボ）をご提供いただきました。
- ・兵庫県の西野さんから支援金37,000円をいただきました。

ご提供いただいた品々は、パラソル喫茶などで仮設住宅や被災地の皆様へ届けさせていただきます。ありがとうございました。

お 知 ら せ (NHKで放映)

9月16日(金)20時～ 「被災地の目線で」

パラソル喫茶で訪問しています「七郷中央公園仮設」が、NHKの取材を受け、その番組が放映されますので、ぜひご覧になってください